



Be a Peacebuilder!



不死鳥を象ったHPCのロゴは、奇跡の戦後復興を遂げた広島で、紛争後の国を支援する平和構築のプロを育成するというHPCの基本精神を象徴しています。

一般社団法人 広島平和構築人材育成センター (HPC) URL: <https://peacebuilderscenter.jp>

東京事務所：〒102-0083 東京都千代田区麹町1-4-4 2階
広島本部事務所：〒730-0053 広島県広島市中区東千田町1-1-61 1階



外務省委託

平和構築・開発における グローバル人材育成事業

Global Peacebuilders Program

平成30年度 事業活動レポート

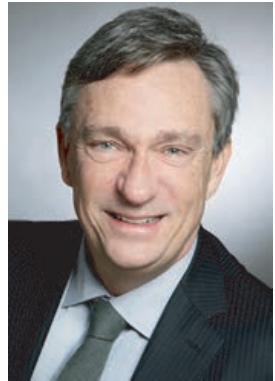




外務省

河野 太郎 外務大臣

紛争の発生と再発の防止に向けて、平和構築、紛争後の復興、開発から紛争予防に至る国際社会による柔軟で包括的な支援の強化はますます重要になってきています。特に平和構築及び開発支援においては、法の支配、人権擁護、ジェンダーに加え、航空、医療、サプライチェーン管理、人事、財務、リスク管理など、幅広い分野で活躍できる高い専門性と能力を持った文民専門家のニーズが高まっています。そのようなニーズの高さに対し、



国連ボランティア計画

オリビエ・アダム 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局長

平和の恩恵を受けること、あるいは参加型の社会、経済開発を進めることが極めて困難である地域や国において、ボランティアリズムは主要な役割を担っています。ボランティアリズムは緊急支援から復興までの移行を促進し、また脆弱な環境が慢性化しているコミュニティのキャパシティを強化する上でも重要な要素となってきます。国連ボランティア計画は平和構築・開発におけるグローバル



広島平和構築人材育成センター

長谷川 祐弘HPC評議委員会委員長／平和構築・開発における

グローバル人材育成事業プログラム・アドバイザー／元国連事務総長特別代表 (東ティモール代表)

変遷していく平和の本質と条件と共に、ピースビルダーズの役割が進化を遂げています。国連創設時には、平和とは単に紛争のない状態を示唆していたものが、冷戦終結に伴い多様化しました。21世紀になってから、紛争の根源的な原因を除去し、法の支配と民主主義に基づいた永続的な平和の構築が、平和活動の任務となりました。近年の紛争が国際



MOFA

我が国は、国際協調主義に基づく積極的平和主義の下、平和構築や開発の分野で貢献できる文民専門家の育成に取り組んできており、その一環として、外務省は本人材育成事業を2007年に立ち上げ、以来この事業を毎年続けております。この事業に参加された皆さんが、国際社会の平和と繁栄の担い手として国連をはじめとする国際機関等で、その専門性にふさわしい役割を得られるとともに、国際協力の最前線で活躍されることを心から願っています。

UNV

人材育成事業を通じて世界の最も困難といわれる地域における経済開発や平和構築に貢献しているボランティアをとて誇りに思っています。今後のキャリアを構築する段階にいる若い人々にとって任地での経験は貴重なだけでなく、より自身の志を高めることとなるでしょう。彼らは任地での貢献以上に異なる文化、異なる国で生きる人々と共に暮らし、そして仕事をするというなものにも代えがたい経験をするのです。

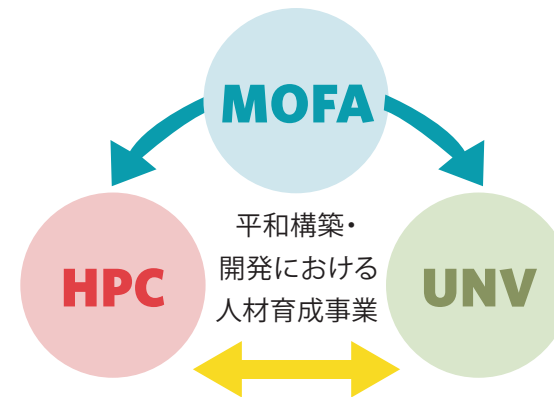
HPC

社会や関係諸国の指導者や市民の思考方法の変化に伴い、普遍的な理念や人間の行動規範の融和を保つことが困難になってきております。このような状態で国家そして現地の社会の伝統と価値観の統合が求められて来ております。平和構築支援に携わる者は、現地社会の自立精神を尊重し、指導者が自らの欲望の自制と他人への「思いやり」の気持ちで、新たな平和構築を目指すべきでしょう。

平和構築・開発の担い手を育てます

平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業とは

実施体制



本事業は、平和構築および開発分野で国際的に活躍していく人材を養成することを目的とした外務省の人材育成事業です。

平和構築および開発分野で今後キャリア形成を目指す方のための「プライマリー・コース」、10年程度の専門的な職歴を持ちながら、国際機関で勤務した経験はない方を対象に、国際機関における自己のキャリア構築の可能性を探り具体化するための研修を提供する「グローバルキャリア・コース」、平和構築・開発分野で10年程度の経験を持ち、同分野で今後更なる活躍を目指す方のための「ミッドキャリア・コース」、またこれらのコースの参加者・修了生を対象に、国際機関やNGO等での就職を希望する方に、平和構築・開発分野のポスト獲得に必要なスキル・知識を提供する「キャリア構築支援」を実施します。

本事業は、外務省委託事業として、前身である「平和構築人材育成事業」から今日の「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」に至るまで広島平和構築人材育成センター (Hiroshima Peacebuilders Center: HPC) が運営にあたり、プライマリー・コースの海外実務研修は主として国連ボランティア計画 (United Nations Volunteers Programme: UNV) が実施します。

国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために。

平和構築の人材育成のための事業であれば、平和構築に関心を持つ者が事業運営にあたるべきではないかという気持ちだけで、この事業を始めました。11年間にわたり、多くの方々と知り合うことができました。今や多くの研修員・修了生が、世界中の様々な組織で、平和構築に貢献しています。運営者として、本当に誇りに感じています。また、かつてHPCに勤務した元職員たちが、今は国連・政府・NGOを通じて、平和構築関連の現場・組織で働いていることも、嬉しく思います。平和構築を志す多くの方々が、HPCを媒介にして飛躍し、活躍し続けています。

この事業の主役は世界中で平和構築や開発に貢献する、研修員・修了生の方々です。そして本事業の運営にあたっては、これらの分野の担い手を育成する、という目標に徹底的にこだわりたいと考えています。人材育成は、簡単に結果が見えてくることはない、息の長い作業です。しかしそれだけに醍醐味のある活動です。HPCは、本事業をいっそう発展させてくれる新しい仲間をこれからも歓迎します。

本事業で提供する研修コースの特徴

キャリア構築に有益な知識の獲得や実務的な技能の習得をする機会を提供

キャリア構築に有益な知識とは、たとえば平和構築にかかわる様々な議論、現場で活動している主な組織、政策に関する知識のことです。またこれらを効率的に提供するだけでなく、様々な対応能力が求められる援助調整やプロジェクト運営を意識したシミュレーション形式の演習も取り入れました。これは集団内での課題解決という点で実際の業務に近い経験をできるよう考慮したものです。さらに、国連等の国際機関でのキャリア構築では個人々の多面的なコンピテンシー (業務能力) が問われます。国内研修では、研修それ自体が一つの目標に向かって多国籍のチームがダイナミックな作業をする現場であると位置づけ、コンピテンシー向上のための具体的な経験を積む機会を作り出しました。

キャリア構築への意識を鋭くする環境を提供

自らがどうして平和構築にかかわるのか、どのようにかわるのか、これらのことを考えることは長期的にキャリアを構築する上で重要です。国内研修の機会を通じて平和構築分野に携わる動機や使命感を深めることができるように配慮しました。また、平和構築分野の経験がない方でも国際機関におけるキャリア構築についてイメージを具体化できるよう気付きの機会を提供しました。

専門家、実務家、修了生や同期研修員との国際的なネットワーク構築の場を提供

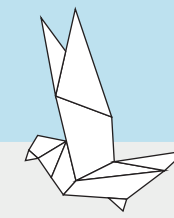
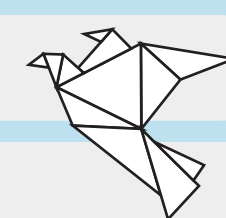
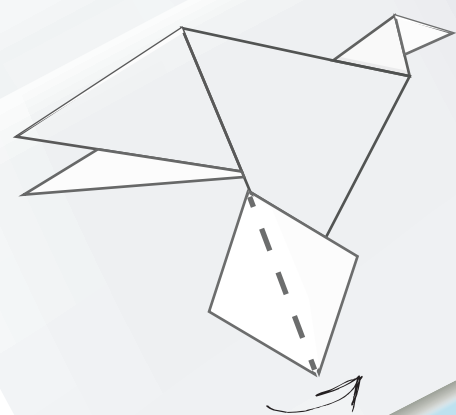
平和構築の現場には様々な学歴、経歴、バックグラウンドを持った人が関わるため、決まったキャリア構築の路線があるわけではありません。様々な人の実例に数多くふれて経験的な知識を広げながら、創造的に自分のキャリアを切り開いていかなければなりません。研修の運営にあたっては、知識や経験が豊富な講師陣などの専門家層や修了生との交流を促進し、さらに悩みを語り合え、志を共有する仲間を広げ、信頼関係が結ばれた人的ネットワークを充実させていけるように最大限の配慮をしました。



篠田 英朗

HPC代表理事／平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業プログラム・ディレクター／東京外国語大学教授

ロンドン大学 (LSE) Ph.D. (国際関係学)。平和構築などに関する著書・論文を多数執筆。代表作:『平和構築と法の支配』(大佛次郎論壇賞)、『国家主権という思想』(サントリー学芸賞)、『集团的自衛権の思想史』(読売・吉野作造賞)など。



なぜ平和構築が 必要なのでしょう？

国連憲章は、第1条1項で、国連が存在する目的を、「国際の平和及び安全を維持すること」と定めています。二度の世界大戦の惨禍をへて、平和のための普遍的な国際機関を設立してもなお、世界から戦争が消える日は訪れていません。今日の世界でも多くの武力紛争が蔓延しています。だからこそ、国際社会は一丸となって、平和を達成するための努力を続けているのです。

また紛争調停や平和維持活動だけでなく、開発援助や人道援助と一体となった平和構築活動も重要です。人権侵害や貧困や災害などの苦難にあえいでいる人々は、決して平和な状態にあるとは考えられません。平和構築とは、そのような人々のための活動でもあります。

平和構築は、国際社会が行う多様な平和のための活動の一つだと言うこともできますが、包括的な性格も持っています。「自律的な安全環境を整える政治的、社会的、経済的変革を支援する」(ブラヒミ報告書*)ためには、むしろ分野横断的な活動が求められます。「PKOのための行動(A4P)」イニシアチブや持続可能な開発目標(SDGs)といった現在の国連の取り組みをまとめた政策文書が示すように、平和で包摂的な社会を推進するためには、女性や若者の貢献を促したり、法の支配を確立する制度や能力を構築したりすることが重要です。そこで多様な分野にまたがる諸問題を解決したり、改善したりするために、多彩な専門家が平和構築活動に必要なのです。

*ブラヒミ報告書(国連広報センター仮訳)、p.4
https://www.unic.or.jp/files/a_55_305.pdf

CONTENTS

平和構築・開発の担い手を育てます

国際的支援に貢献する意欲に満ち溢れた人材が、さらにその意欲を高めるために
本事業で提供する研修コースの特徴

2

なぜ平和構築が必要なのでしょう？

3

ピースビルダーズの姿

5

プライマリー・コース

7

プライマリー・コース修了生のキャリアパス例

10

グローバルキャリア・コース

11

ミッドキャリア・コース

13

キャリア構築支援

15

ピースビルダーズ特集

17



副島知哉 ヨルダン・ルウェイシェドにて

ピースビルダーズの姿

広島平和構築人材育成センター(HPC)は、外務省の委託を受け平和構築人材育成研修コースを過去10年以上にわたり実施。世界各地の現場第一線で「ピースビルダー」として平和構築に取り組む、数多くの有為な人材を輩出してきました。



平成22年度プライマリー・コース修了生

修了生レポート
ヨルダン・緊急援助の現場から

副島知哉

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) ヨルダン・ルウェイシェド事務所 所長。オックスフォード大学大学院修了(強制移住学修士)。他に東京大学(国際貢献修士)、慶應義塾大学(法学学士)において学ぶ。専攻は難民・強制移住学及び国際政治学。UNHCRに採用され、ダダーブ事務所(ケニア)、ペイルート事務所(レバノン)、イルビド事務所(ヨルダン)を経て、2016年10月より現職。シリア難民への支援助物資配給及び緊急医療支援に従事する。平和構築人材育成事業修了生。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) ヨルダン・ルウェイシェド事務所の運営するルクバン診療所にある日、妊娠した19歳の女性が避難民キャンプから運ばれてきた。体の大半の血を失った危険な状態で、すぐにでも輸血が必要だ。しかし診療所には輸血機能がない。

ヨルダンの大きな病院に搬送しないといけないが、難民の搬送には、ヨルダン当局の許可が必要で、それには早くても24時間かかるのが普通だ。このケースは無理だろう、難しい。本部にも現場にも一時あきらめのムードが漂ったとき、声をあげた。

「本当に命がなくなる最後の瞬間までやろう。我々があきらめてどうするんだ。最後まで、やれるところまでやろう。」

現場にこの患者がいて、数時間以内に輸血しないと命が亡くなる。24時間も待てられない。チームは現場から2時間くらい離れた小さな病院から、輸血のバッグを車で運んでもらう手筈を整える一方で、当局との交渉を続け、なんとか例外的に搬送の許可を引き出し、救急車で送ることができた。砂漠の道の真ん中で輸血を始めて、彼女の命は助かった。

血液を砂漠の診療所に運ぶ、ましてや砂漠の真ん中で、救急車の中で輸血を始めるなんてことはやったことがなかった。

「結果的に命が助かって本当に良かったですけど、こんな状況ばかりですね、毎日」と副島さんは話してくれました。UNHCRヨルダン・ルウェイシェド事務所所長として働く副島さんに、シリア難民の保護と支援の日常について、仕事への思いについて伺いました。

ヒューマンセキュリティの問題

シリアとヨルダンの国境に何10キロも続く土の塹壕があって、その4キロくらいの幅に5万人くらいの避難民が5年以上留まり続けている場所、それがルクバンのキャンプです。

UNHCRの基本的な仕事の中身は診療所を設置して医療支援を提供したり、毛布などの支援助物資を配布したりすることです。キャンプには援助関係者が入れず、食糧が欠乏し、医療支援が限られている中で人道的な危機があります。どうにか支援をやらなければならないけれど、国境警備の観点からヨルダンには避難民を入れることは許されていない。支援をしようとしてもどこまで安全が保障できるかわからない。キャンプの避難民の大半は女性や子供で、皆が大変な生活を強いられていることは間違いない。その人たちの生活どう守るか、その人たちの命をどう守るか。生命を存続させるための最低限の環境をどうつくるか。ヒューマンセキュリティの領域です。

現場にいるものとしてやらなければいけない責任

今の仕事で一番意義があると思うのは、自分たちが現場で自分の目で見たり聞いたりしている、ということです。こういう政治的にセンシティブな場所は、外部の目が届きにくいので、現場の状況についてそれぞれの立場の人がいろいろなことを言います。必ずしも100パーセント信じられることばかりではない。

しかし現場にいる者としてやらなければいけない責任は、実際に紛争から逃げてきて、大変な避難生活をしている人たちが、どんな困難を抱えて、どんな生活をしているかを、できるだけ正確に世界の人に伝えていくことなんじゃないかと思います。「難民の目となり耳となり」という言葉を胸にきざんで、それを踏まえて現場の状況を反映させた政策決定をしていくことが一番の使命じゃないかと思っています。



ただ、政策を現場で実現していく日々の仕事に追われて、情報と分析を提供することが追いつかなくなることもあるんですね。緊急事態で、いろんなことが起こって大変な時に、毎日報告書を書かなければならない。それならば、その時間を現場で治療が必要な人に医者を見つけるといった目の前の対応にあてた方が、その人のためになるんじゃないか……。そう思われる方もいるかもしれませんが、ただ、我々の仕事というのはそれだけではないんですね。

「いまこの事務所のスタッフが誰も、キャンプの現状や難民について、自分たちで見たことについて話をしなかったら、この世界で彼らの立場に立って話す人はなくなるよ。目の前の人の命を救うことだけに精力を傾けて、これを誰にも伝えていなかったら、自分たち以外の誰にも彼らの大変な状況をわかってはもらえないよ。」とスタッフにはよく言います。いかに正確に現場の状況を伝えるかが、大事な業務の一つという話をいつもしています。

国連で働くということ

元々難民問題について興味があり、大学で勉強したり、国連の東京オフィスでインターンをしたりしましたが、やっぱり現場に行こうと思った最大のきっかけは、人づてに現場の様子を聞くだけでは満足できないという自分の強い思いがあったからです。

日本でも災害などで大変なことが起こったときに、誰しも程度の差はあれ、何かしなきゃいけない、何かできるんじゃないかという思いを持った人は大勢いたと思うんです。募金をしたり、ボランティアをしたり、支援団体に入って現地で活動したり、いろんな手段があつていいと思います。それだけの少くない人が関心を持って行動するのは、「何か人の役に立てればいい」というどこか共通の思いがあるからではないでしょうか。誰かにほめてもらいたいとか、善いことをしたいということなんかではなく、大変な思いをしている人が目の前にいて、その人たちの生活がちょっとでも良くなってほしいと願う。そういう意味で、目的意識が今の私の仕事でははっきりしています。もしそういった思いを抱えている方がいれば、国連に飛び込んでやってみる価値はあると思います。UNHCRは現場と強いつながりを持ち、国連のなかでは現場の組織たることを自認しているといえるかもしれません。

UNHCRは「難民の保護と支援」を基本的なマンデート(任務)にしています。目の前の問題も山積んでいます。「なんでこの仕事をやっているんだろう」「この仕事がどういう意味を持つんだろう」「誰のためになるんだろう」という疑問を持つ暇は、これまでではほぼなかったかもしれません。もちろん組織の自浄作用のためには、そう自問していくことも大切な責任のひとつではあります。

キャリアセミナーなどで受ける質問には、「国連職員になるにはどんな準備が必要ですか?」といった技術論を問うものが多くあります。語学やネットワーク作り、就職に有利な学術分野といったことに関する質問です。それが必要なことではありますが、まず自分自身に本当に国連の仕事がしたいかを聞いてくださいと答えています。一口に国連といっても、かかわる分野は驚くほど多岐にわたります。専門性があれば、それに関連するポストがなにかしらあるはずですよ。どの分野であれ、勉強や仕事で関わっている分野を突き詰めていって、その先に自分に何ができるのかを考える方が、遠回りに思えるかもしれないけれど、自分のやる気と根性を確認する意味でも結果的には良いのではないかと考えています。

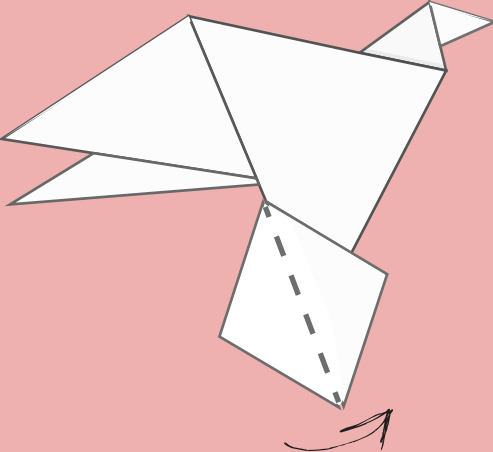
モチベーションは「危機意識」

国連でよく言う求められるスキルとして、現場の状況に対する判断力があげられると思うのですが、現場では完全な情報がない中でプロバビリティ(確からしさ)に基づいて動くという対応力が求められます。理解できないようなことが起こり、フラストレーションもたまります。ただプロバビリティに基づいて判断する中でも、譲歩してはいけないものもあります。

例えば、シリアの危機が収束に近づきこれから難民は帰還をしていく段階にあると言われたときに、私にとって一番大事だと思うのは、「彼ら彼女ら難民一人ひとりが本当に帰りたいか」ということです。

難民に聞けば、もちろんいつか帰りたいと言うかもしれない。ただ今はまだ治安が不安とか、帰ろうにもお金がないとか、帰ったら家族がシリア当局に連れて行かれるかもしれないとか、いろいろな事情を抱えているわけです。この思いを汲み取って、現場の声のニュアンスを伝えないといけない、政策決定をする人に知ってもらわないといけない、と強く思っています。問題が山積みで、そうした危機意識がモチベーションになっています。





Primary Course

プライマリー・コース

身につくのは、知識、実践、
自信、そして人の輪



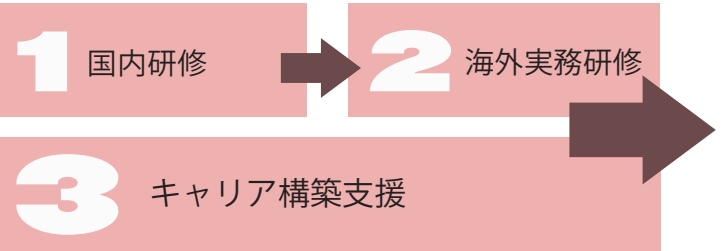
① 国内研修
平成31年1月23日から2月26日まで東京と広島において国内研修を実施し、日本人研修員15名およびアジア・中東・アフリカ・南米各国の外国人研修員10名が、約5週間にわたり寝食を共にし、ロール・プレイやグループワーク等を通じて互いに切磋琢磨しました。海外の平和構築人材育成機関や国連などの国際機関と連携し、世界最高水準の講師陣による充実した研修を実施しました。これによって、平和構築・開発分野の第一線で活躍する実務家との人的ネットワークの形成も期待されます。



② 海外実務研修
日本人研修生は国内研修修了後、海外実務研修において国連ボランティア（UNV）として平和構築・開発分野の現場で活動している国際機関等へ、最大12ヵ月間派遣されます。平和構築・開発分野の専門家になるためには、実務経験が欠かせません。国内研修で習得した理論やスキルなどを現場で実践する貴重な機会となります。



③ キャリア構築支援
国内研修開始時から、将来のキャリア・プランづくりを支援します。国際機関の要職経験者や人事担当者による助言制度などのサポート体制を強化するとともに、他の研修員、国内研修の講師陣、海外実務研修先の機関などと研修を通じて幅広い人脈を築くことが可能です。また、採用に関する情報の提供を目指します。



今年度研修員からのメッセージ

エミリア・エペティ・ミキ



開発・人道支援分野における5年以上の職務経験を持ち、平成30年度「平和構築・開発におけるグローバル人材育成事業」研修コースに研修員として参加したことは、私のキャリア、そして人道支援と開発の目標に大きな影響をもたらしました。コースのセッションは、自分の能力を強化し、自分の才能、能力を識別し、定義づける場を提供してくれ、私の専門知識と能力を専門的にまとめてくれました。私が身につけたこの新しい知識、グローバルなネットワークは、コース中とその後に得た認識が、帰国後のカメルーン、そして世界における私の仕事に付加価値をもたらしてくれると確信しています。ファシリテーター・講師の皆さんの謙虚さと知識・経験・人的ネットワークを共有する能力、そして選抜された研修員の皆さんのおかげで、私の日本訪問は公私ともども、決して忘れられない経験となりました。

河野 雄太



プライマリー・コースは、国連で平和構築や開発の分野でキャリアを始めたい人々にとって非常に良い選択肢です。講師陣は国連を主とする国際機関から招聘され、研修員は最新の知識と技術を学ぶことができます。また、国連に採用される際に必要となる面接技術や書類作成に関しても手厚いサポートを受けることができます。最後に、研修期間を通して培われた研修員同士の絆や講師陣とのネットワークは修了後に世界に羽ばたく研修生にとって大変貴重なものです。国連でのキャリアを始めたい人々にはプライマリー・コースを強くお勧めします。

国内研修の様子



国内外より講師・研修員が集まり、活発な討議が行われる中で約5週間の研修コースが進みます。



国連平和構築活動における経験豊富な講師が、直接講義を行います。



問題解決に向け、講師と研修員が共に意見を出し協力していきます。



週末のエクスカージョンでは、1945年の原子爆弾被ばくの痕を留める「原爆ドーム」視察を通じ、研修員は平和の大切さを再確認します。

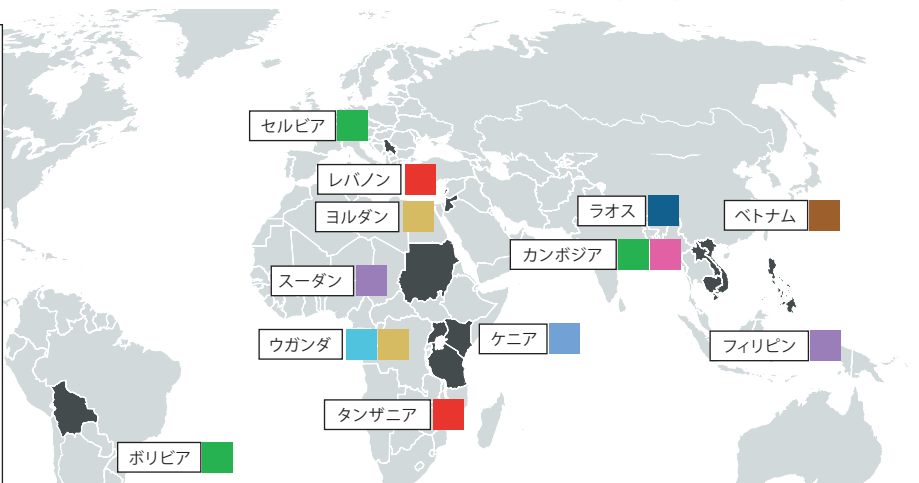
平成30年度プライマリー・コース:カリキュラム・講師紹介

Initial Week 篠田 英朗 HPC代表理事/東京外国語大学教授 上杉 勇司 HPC副理事/早稲田大学教授 玉内 みちる HPC評議委員兼シニア・アドバイザー(キャリア構築支援)/株式会社ロータス・インサイト・グローバル代表取締役/元UNICEFインド事務所人事課長 佐藤 美央 国際移住機関 (IOM) 駐日事務所代表 ダーク・ヘベカー 国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所代表 濱井 貢 国連世界食糧計画(WFP)日本事務所 政府連携官	根本 巳欧 国際連合児童基金(UNICEF)東京事務所副代表 近藤 千華 TICAD連携専門官国連開発計画 (UNDP)駐日事務所 土肥 優子 国際協力機構 (JICA) 国際協力専門員 土生川 正篤 外務省総合外交政策局国際平和協力室 首席事務官 陸上自衛隊駒門駐屯地訪問 佐藤 和之 陸上自衛隊中央即応集団国際活動教育隊 隊長	Workshop 3: コーディネーション 多様な組織間の業務調整・交渉の手法 人道援助活動(ジェンダーや児童保護等含む)の政策的課題 忍足 謙朗 HPC評議委員/元国連世界食糧計画(WFP)アジア地域局長 藤原 広人 国際刑事裁判所 (ICC) 書記官・対外活動局 国別分析ユニット長 イ・キョンシン コミュニティ・ワールド・サービス・アジア 準地域ディレクター ピーター・コゼレツツ 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) パンク事務所国際人道援助緊急事態対応訓練地域センターコーディネーター ギョーム・フォリオ 人道問題・緊急事態管理に関する独立コンサルタント・講師 水田 慎一 国連事務総長特別代表(アフガニスタン担当)/国連アフガニスタン支援ミッション 代表・特別補佐官 ジョン・キャンベル 元人道・安全・初期対応トレーナー/元国際NGOグローバル安全アドバイザー 篠田 英朗/ 上杉 勇司/ 玉内 みちる
Workshop 1: アナリシス 紛争分析の理論と様々な方法 政治的・法的分野(和平調停・裁判所等)の政策的課題 マーシャル・コンリー コンリー国際教育コンサルタント代表 ジョマート・オルモンベコフ 国連政治・平和構築局北京駐在政務調整官 シモネッタ・ロッシ 国連シエラレオネ常駐調整官事務所 平和・開発アドバイザー	クウェジ・アニング コフィ・アナン国際平和維持訓練センター (KAIPTC) 学術調査部長 デズモンド・モロイ HPCコース・メンター/日本財団ミャンマーリエゾンオフィス プログラム・ディレクター 篠田 英朗/ 上杉 勇司/ 玉内 みちる	Workshop 4: マネジメント プロジェクト運営の手法 開発援助活動(各種援助スキームを通じた支援)の政策的課題 小松原 茂樹 国連開発計画(UNDP)アフリカ局 TICADプログラム・アドバイザー 稲葉 光彦 国連ボランティア計画 (UNV) 財務課長 ママドゥ・ンダウ 国連開発計画 (UNDP) エチオピア・アフリカ地域事務所 結果重視マネジメント (RBM)・評価アドバイザー/チームリーダー 篠田 英朗/ 上杉 勇司/ 玉内 みちる/ 忍足 謙朗/ ジョン・キャンベル
Workshop 2: プランニング プロジェクト／ミッション立案の手法 安全保障分野 (DDR・SSR・PKOミッション等) の政策的課題 長谷川 祐弘 HPC評議委員会委員長/ 元国連事務総長特別代表 [東ティモール担当] ポール・エグンソラ 国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) 官房長 マイケル・エメリー 国際移住機関(IOM)人事部長 篠田 英朗/ 上杉 勇司/ 玉内 みちる/ デズモンド・モロイ	アンソニー・P・ダンカー 国連オペレーション支援局 (DOS) 人事部長次 平原 弘子 国連南スーダン共和国ミッション (UNMISS) ベンティウ事務所 所長 大庭 真理枝 国連コンゴ民主共和国安定化ミッション (MONUSCO) 選挙局 シニア・アドバイザー	Workshop 5: マネジメント マネジメント安全管理術／キャリア構築／キャリア・マネジメント 佐藤 知央 オフィスクラッチ代表(キャリアコンサルタントとして人材育成・活用に関するコンサルティング及び研修に従事) 忍足 謙朗/ ジョン・キャンベル ルイス・ロビンソン InsiTutトレーニング ディレクター (上級人道支援アドバイザー・安全トレーニング専門家)

平成29年度プライマリー・コースの海外実務研修先



	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) ケニア
	国連人間居住計画 (UN-Habitat) カンボジア
	国連児童基金 (UNICEF) ヨルダン、ウガンダ
	国連開発計画 (UNDP) フィリピン、スーダン
	国際移住機関 (IOM) ウガンダ
	国連食糧農業機関 (FAO) ベトナム
	国連常駐調整官事務所 (UNRCO) ボリビア、カンボジア、セルビア
	ジェンダー平等と女性のエンパワメントの ための国連機関 (UN Women) レバノン、タンザニア
	世界保健機関 (WHO) ラオス



平成19年度～29年度までの11年間の派遣先機関数：21機関
派遣先総数：50カ国・地域
※ミッドキャリア・コースを含む

国連ボランティアとして積む、平和構築・開発の現場での実務経験

海外実務研修では、国連ボランティアとして国際機関での実務に従事します。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実務経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。これまでの事業では、国連開発計画 (UNDP)、国連児童基金 (UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、

国連世界食糧計画 (WFP)、国際移住機関 (IOM) といった国連機関が主な受け入れ先となりました。派遣先の地域も、アフリカ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、東南アジア、中央アメリカなど非常に多岐にわたっています。



プライマリー・コース修了生のキャリアパス例

景山 健さん <平成24年度修了生>

応募動機



貢献できるのかを知りたいと思い
応募しました。

研修参加前

大学卒業後、アメリカの大学院で経営学を専攻。民間企業の財務部門で勤務した後、南スーダン共和国でNGO職員として主に水衛生分野及びシェルター分野での支援活動、オフィスの管理業務に携わる。

海外実務研修

国連難民高等弁務官 (UNHCR) タジキスタン事務所、プログラムアシスタントとしてパートナーNGOと共にプロジェクトの立案・実施に携わり、当該NGOの能力強化として財務・会計指導、監査準備プロセスの改善などに従事。

研修終了後のキャリア

NGO職員としてイラク・シリアの人道支援を担当し、その後国連児童基金 (UNICEF) の財務管理部で予算セクションに勤務。

木村 真紀葉さん <平成26年度修了生>

応募動機



本事業に参加する前にもコンゴ民主共和国やハイチで開発・人道支援の現場経験が多少ありましたが、学生時代から興味を持っていた紛争予防やコミュニティレベルでの平和構築に直接関わる経験をもっと積みたいと思っていました。本事業の海外実務研修で国連ボランティア (UNV) として平和構築関連の現場で働く機会を得られることに、とても魅力を感じました。

研修参加前

大学卒業後、英国の大学院で修士号 (紛争解決学) を取得後、米国 NGO カーター・センター、在コンゴ民主共和国日本大使館 (草の根委嘱員)、NGO のハイチ駐在員を歴任。

海外実務研修

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) コンゴ (民) ・バドリテ事務所、同国北部の南北ワング州に避難している中央アフリカ共和国難民 (約10万人) の支援に携わる。主な担当業務は、4か所の難民キャンプにおける平和構築プロジェクトのフォローアップ、ムスリム系難民の若者とキリスト教系難民の若者の融和プロジェクト、コミュニティ・モビライゼーションの3つ。

研修終了後のキャリア

国連人道問題調整事務所 (OCHA) のチャド事務所とエチオピア事務所を経て、2019年2月より中央アフリカ共和国のOCHA バンバリ事務所に入道問題担当官として着任。

荻本 貴子さん <平成27年度修了生>

応募動機



キルを習得することができると考えました。

研修参加前

大学院にて公共政策学を専攻後、政府系開発金融機関での3年間の勤務を経て、在タンザニア日本大使館にて援助協調を専門とする経済協力調整員として勤務。その後、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) タンザニア事務所にてインターンを通じて業務経験を得る。

海外実務研修

UNHCRマケドニア・スコピエ事務所のプログラム部署において、オペレーション計画、予算、モニタリング、ドナー対応、プロジェクトコントロール業務に従事。当時スコピエ事務所は、バルカン半島難民危機の対応で複雑かつ目まぐるしい業務環境にあり、厳しくも実りの多い1年であった。

研修終了後のキャリア

UNHCRジュネーブ本部中東・北アフリカ局の国担当補佐官として、イエメン、イスラエル、湾岸諸国を担当し、本部レベルでの予算折衝、オペレーション運営方針の策定等業務に従事。現地事務所と本部を繋ぐ窓口担当者としてフィールド事務所を支援。また、局内異動を経て中東・北アフリカ局長アシスタントとして局内外の調整、折衝、オペレーション方針の策定の補助に従事。現在はJPOとしてパキスタンのイスラマバードに勤務。

山本 祐一郎さん <平成28年度修了生>

応募動機



広げることができると考え、応募しました。

研修参加前

アメリカの大学を卒業後、民間企業で勤務。その後、アルゼンチンの語学学校での教師、イギリスの大学院、インドネシアの教育機関でのコンサルタントなどを経て、東日本大震災をきっかけに日本のNGOへ。東京本部にて国内・海外事業、緊急支援などに従事した後、パキスタン事務所ではアフガニスタン難民の教育支援活動、オフィスの管理業務に携わる。

海外実務研修

国連児童基金 (UNICEF) シエラレオネ事務所にて、子どもの保護担当官として勤務。子どもの保護セクションのプログラムの立案、実施、モニタリング、政府機関・協働団体との調整などに従事しながら、教育セクションの業務補佐も担当した。また、2017年8月に発生した大雨による土砂崩れ・洪水の被災者に対し、子どもの保護に係る緊急支援活動を3か月間リードした。

研修終了後のキャリア

UNVとして勤務していたUNICEFシエラレオネにてそのまま正規職員 (P3) として勤務。それまでの業務に引き続き従事しながら、新たに青少年の能力開発・平和構築プログラムのマネジメント、また、子どもの保護活動全体のモニタリング・評価を担当する。

Global Career Course

グローバルキャリア・コース

国際機関でのキャリア構築のための
知識とフィールドでの体感



「グローバルキャリア・コース」は、10年程度の専門的な職歴を持ちながら、国連等の国際機関での勤務経験がない方々を対象に、国連の諸活動について知識を深め、これまで自身が積み上げてきた技能を再認識した上で、今後の国際機関におけるキャリア構築の

今年度参加者からのメッセージ

井上 直美

ジェトロ・アジア経済研究所 研究員



民間企業でICT関係の商品開発や事業戦略計画を経験後、アフリカで様々な立場から国際開発に携わり、現在は研究者として「開発とビジネス」をテーマにビジネスと人権の視点から、責任あるサプライチェーンの推進等に取り組んでいます。企業活動を通じた開発への貢献をもっと推進したいという想いから、国連憲章の下に大きな枠組みで社会的なインパクトを与えられる国連での仕事に興味を持ちました。本研修を通じて得たものは、経験豊かな講師陣からのアドバイスの下に自身のキャリア・プランの再構築ができたこと、様々な分野での経験が豊富な他の参加者からの学びと彼らとのネットワーク、及びフィールド・トリップ先のシエラレオネにおけるインタビューの实地研修と情報交換からの気づきでした。シエラレオネでは、例えば自己アピールのやり方など研修で学んだことを現場で試す良い機会となりました。コースを通して今後のキャリアの選択の幅・深度を戦略的に考え直すきっかけになったと思います。

可能性を探り具体化させていくことを目的とします。本コースでは、国内研修（必須）と海外フィールド・トリップ（オプション）を提供します。今年度の国内研修は平成30年10月9日から12月22日までの期間で13回にわたり、東京で実施しました。

本田 路晴 Blackpeak Japan 株式会社
アソシエイト・ディレクター、グローバル・プラクティス



ジャーナリストとして長年働いてきた中で、東ティモールの騒乱から独立までの激動の数年間を取材した経験があります。現地でインタビューした国連職員の仕事は、やらなければならない使命に輝いていました。また救済活動にあたっていた国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の人たちは、とても生き生きして格好良かったです。彼らに「どこの国から来たのか」と尋ねると「UNから」との返事。国を超えたところで大家族のような絆で世界平和に貢献する姿に強い憧れを持ちました。グローバルキャリア・コースではプレゼンや面接の仕方など具体的にスキルをコーチングしてもらい、またフィールド・トリップのキプロスでは国連で働いている人と直接話すことができ、国連職員に何が求められるかを理解することができました。このコースがなかったら出会わなかった年齢も背景も違う様々な人たちと出会えたことは今後の大きな財産です。これを機にまた国連職員を目指すには、「運」と共に「根気」が必要との大事な気づきも得られました。

フィールド・トリップ（オプション）

シエラレオネ

シエラレオネへのフィールド・トリップは、平成30年11月17日～11月25日に実施し、現地の6つの国連機関を訪問し、意見交換を行いました。フリータウン郊外の洪水被害移住者の集落における日本政府支援による国際移住機関（IOM）給水プロジェクトのサイトも視察。現地政府高官や大学関係者との交流も行いました。



キプロス

キプロスへのフィールド・トリップは、平成30年11月22日～11月28日に実施し、現地で平和維持活動を展開している国連PKO（UNFICYP）や、平和創造に向けた仲介に従事しているOffice of Special Advisor to the Secretary-General（OSASG）を視察しました。キャリア相談懇談会やバッファゾーン（緩衝地帯）などの最前線への訪問も行いました。



平成30年度グローバルキャリア・コース国内研修：カリキュラム・講師紹介

導入：国際機関の人事制度の概要

日本の国際平和協力

中村 浩平

外務省総合外交政策局

国際平和協力室 室長

国際公務員という選択

本田 誠

外務省総合外交政策局

国際機関人事センター 室長

プロジェクト管理術：Planning and Organizing

小松原 茂樹

国連開発計画(UNDP)アフリカ局

TICADプログラム・アドバイザー

会議管理術：Teamwork

浅井 なほこ

国際連合児童基金(UNICEF)東京事務所パートナーシップ調整官

プロジェクト立案術：Client Orientation

佐藤 美央

国際移住機関(IOM)駐日事務所代表

緊急援助管理術：Judgement / Decision-Making

濱井 貢

国連世界食糧計画(WFP)日本事務所 政府連携担当官

交渉術：Building Trust

河原 直美

国連難民高等弁務官事務所

(UNHCR)駐日事務所副代表

古本 秀彦

国連難民高等弁務官事務所

(UNHCR)駐日事務所 渉外担当官

国連平和維持活動の長期にわたる関与のケースとしてのキプロス紛争後の平和構築のケースとしてのシエラレオネ
フィールド・トリップ
フィールド・トリップの発表

キャリア構築に向けた総合討議及びコミュニケーションスキルやライティングスキル等の課題に基づいた演習

篠田 英朗

HPC代表理事/

東京外国語大学教授

田辺 圭一

元国連南スーダンミッション民政官/

東海大学准教授

上杉 勇司

HPC副理事/

早稲田大学教授

平和維持活動の課題、平和維持活動と他の

国連機関の調整の課題：Vision and Leadership

長谷川 祐弘

HPC評議委員会委員長/

元国連事務総長特別代表

〔東ティモール担当〕

忍足 謙朗

HPC評議委員/

元国連世界食糧計画(WFP)

アジア地域局長



Mid-Career Course

ミッドキャリア・コース

平和構築・開発の現場におけるキャリア構築のためのスキル、能力の深化と実践



「ミッドキャリア・コース」は、平和構築・開発に関連する諸分野（法律、行政、医療、IT、調達、会計、広報等を含む）で10年程度の実務経験を有する方々のキャリア発展を目的とし、組織における立場の変化や複雑化する業務への対応等の課題に対し、求められる総合的な応用力として、国際機関における「コンピテンシー（業務遂行能力）」である「コミュニケーション/ネゴシエーション」、

「リーダーシップ/マネジメント」に焦点をあてて、ロールプレイ演習などを通じて強化していきます。参加者の方々に、講師陣のフィードバックをもとに更なる個々人のパフォーマンスの向上を図り、またチームワークを通じたネットワーク構築を進めていただく機会を提供します。今年度は平成31年1月5日から11日までの7日間にわたり、東京で実施しました。

ミッドキャリア・データ ― 参加者出身機関（平成27～30年度、機関・部署名はコース参加時）

国連機関 ▶ UN Secretariat (国連事務局) ▶ DPKO (国連平和維持活動局) ▶ DFS (国連フィールド支援局) ▶ UNMAS (国連地雷対策サービス部) ▶ DPI (国連広報局) ▶ UNRCO (国連常駐調整官事務所) ▶ IOM (国際移住機関) ▶ WFP (国連世界食糧計画) ▶ UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) ▶ FAO (国連食糧農業機関) ▶ UN-Habitat (国連人間居住計画) ▶ UNESCO (国連教育科学文化機関) ▶ UNAIDS (国際連合エイズ合同計画) ▶ ILO (国際労働機関) ▶ UNOPS (国際連合プロジェクトサービス機関) ▶ UNDP (国連開発計画) ▶ UNFCCC (気候変動枠組条約事務局) ▶ UNRWA (国連パレスチナ難民救済事業機関) ▶ WHO (世界保健機関) ▶ UNITAR (国際連合訓練調査研究所) ▶ UNMISS (国連南スーダン共和国ミッション) ▶ UNSOM (国連ソマリア支援ミッション) ▶ MINUSMA (国連マリ多元統合安定化ミッション) ▶ UNSOA (国連AMISOM支援事務所)

PKO訓練センター ▶ KAIPTC (コフィ・アナン国際平和維持訓練センター)

国際機関 ▶ ICRC (赤十字国際委員会) ▶ INTERPOL (国際刑事警察機構) ▶ 世界銀行 ▶ メコン川委員会

政府関係機関 ▶ 外務省 ▶ 内閣府 ▶ JICA (国際協力機構)

NGO、民間企業

今年度参加者からのメッセージ



樋谷 恒孝
国連開発計画 (UNDP)
プログラム・スペシャリスト

当コースは参加者全員が国連システムでの勤務経験があるため、プレゼンの仕方から同僚とのコミュニケーションで心掛けるべき点など、国連内で実際に有効なスキルを学ぶことができる内容でした。また、国連組織でリーダー経験のある方達からアドバイスも頂き、同様の悩みを

抱える参加者との意見交換もできました。国連システムの中で何年も働いていると様々な理由でモチベーションが下がり、パフォーマンスも落ちてくる時期があります。当コースの受講はスキルの向上だけでなく、仕事への意欲を再び高めてくれる良いきっかけとなりました。



リサ・リーフキ
国連南スーダン共和国ミッション
(UNMISS) 政治局上級政治担当官

私は15年以上にわたり、東ティモール、レバノン、ブルンジ、南スーダンの各地域、ならびにジュネーブとニューヨークの本部で平和活動を行う榮譽に浴してきました。ミッドキャリア・コースでは、専門の実務家や学者による研修とコーチングを通して、私のコミュニケーション・交渉とリーダーシップ・管理のための業務能力を向上させる貴重な機会を頂きました。同時に、私は自分自身の経験を共有し、仲間の参加者と交流し、そこから学ぶためにリソースパーソンを楽しみながら務めました。コースのファシリテーションと組織体制は素晴らしく、学びを深め促す学習環境でした。国際的なキャリアを追求することに

興味を持っている人なら誰もが心に留めておくべきことが3つあります。第1に、強いチーム意識を育むことを目指すことです。最も困窮している人々に、家から遠く離れた場所ですさまざまな国籍の様々な経歴を持つ人々に対して仕事を行うためには、組織の壁を越えたチームの共同作業が必要です。第2に、専門分野の達人になり、継続的に自分自身を向上させるためにオープンになりましょう。そして第3に、謙虚であり続けることです。あなたがどの立場にしようとも、皆を尊重して扱いましょう。可能な限り困難なことに毎日最善を尽くし、他の人たちもそうするように励まし助けてください。

平成30年度ミッドキャリア・コース：カリキュラム・講師紹介

1ST STAGE 国際機関におけるコミュニケーション

- Day 1 概要：コミュニケーション
- Day 2 実践的な対人スキル
- Day 3 実践的な広報スキル

篠田 英朗
HPC代表理事/ 東京外国語大学教授
上杉 勇司
HPC副理事/ 早稲田大学教授
長谷川 祐弘
HPC評議委員会委員長/
元国連事務総長特別代表
〔東ティモール担当〕

玉内 みちる
HPC評議委員兼シニア・アドバイザー
(キャリア構築支援) / 株式会社ロータス・
インサイト・グローバル代表取締役/
元UNICEFインド事務所人事課長
忍足 謙朗
HPC評議委員/元国連世界
食糧計画(WFP)アジア地域局長
アンドリュー・カシム
クルーシャルコミュニケーション
代表取締役

2ND STAGE 国連システムにおけるリーダーシップ

- Day 4 国連平和活動の機能と動向
- Day 5 概要：リーダーシップとマネジメント
- Day 6 演習：計画立案におけるリーダーシップ
- Day 7 演習：国連システムにおけるリーダーシップ

シッダルタ・チャタジー
駐ケニア共和国国連常駐調整官/
国連開発計画(UNDP)常駐代表
野田 章子
駐モルディブ共和国国連常駐調整官/
国連開発計画(UNDP)常駐代表/
国連人口基金(UNFPA)代表

田中 美樹子
駐ガイアナ共和国国連常駐調整官/
国連開発計画(UNDP)常駐代表
鈴木 彩果 (スカイプにて参加)
国連事務局 幹部職員

篠田 英朗 / 上杉 勇司 / 長谷川 祐弘 / 玉内 みちる / 忍足 謙朗 / アンドリュー・カシム

ディーン・ウィリアムズ
ハーバード・ケネディスクール公共政策学非常勤講師

篠田 英朗 / 上杉 勇司 / 長谷川 祐弘 / 玉内 みちる
忍足 謙朗 / アンドリュー・カシム / シッダルタ・チャタジー / 田中 美樹子

キャリア構築支援

採用のプロセスと仕組みを理解し、戦略的に応募の準備をするコツを知る



キャリア構築カウンセリング

各コースの参加者・修了生を対象に玉内みちるシニア・アドバイザーによるカウンセリングを継続的に実施。受講者はこれまでの経験・専門性を振り返りつつ、自身の今後のさらなるキャリアの発展に役立つアドバイスを受けました。

玉内 みちる

HPC評議委員兼シニア・アドバイザー（キャリア構築支援）/ 株式会社ロータス・インサイト・グローバル代表取締役/ UNICEFインド事務所人事課長



活躍できる場が見つかる可能性もあります。

世界を舞台に働く「グローバル人材」とは国際機関に限らず、グローバルビジネスの分野においても、世界のどこでも通用する専門知識・スキル・行動パターンを持っている人のことをさします。語学のみならず、文化やコミュニケーション・スタイルの違いを乗り越える柔軟性を持ち、多様な人々と目標達成のために効果的に働くことができる人材のことです。

世界各国にプログラムを展開する国連組織は、チャレンジングな職場です。異文化の人々と異文化の環境で、世界のことを考えながら働く現場です。泣いたり笑ったり、落胆したり感動したり、自分自身の文化の境界と限界を常に超えることを余儀なくされるユニークなキャリアです。グローバル・キャリアに挑戦してみたい方々にとって、HPCのコースはご自分のキャリア人生において、貴重なターニング・ポイント、転換点となると思います。皆さん、どんどん参加してください。

キャリア支援セミナー

平成30年10月22日に東京で、茶木久実子・元国連機関人事官を講師として、国連人事システムについての解説セミナーを実施しました。国連の人事システム、国際公務員としての権利と義務、福利厚生等について、実際に現場で携わってきた講師からエピソードを交えて講演を行っていただきました。参加者からは、国連機関で働いていても体系的に知る機会が少ない情報を得ることができ、今後のキャリア形成に有効に活かしていきたいという感想が寄せられました。

また、平成31年1月8日には、井筒節・元国連本部精神保健・障害チーフを講師としてメンタルヘルスについてのセミナーを実施しました。メンタルヘルスは持続可能な開発目標（SDGs）においても優先事項となっており、精神的ストレスの予防・対処・解決についてお話していただきました。参加者にとっては、時に危険地帯での勤務などもある国連という特殊な環境下でのメンタルヘルスの重要性について考え、再認識する機会となりました。

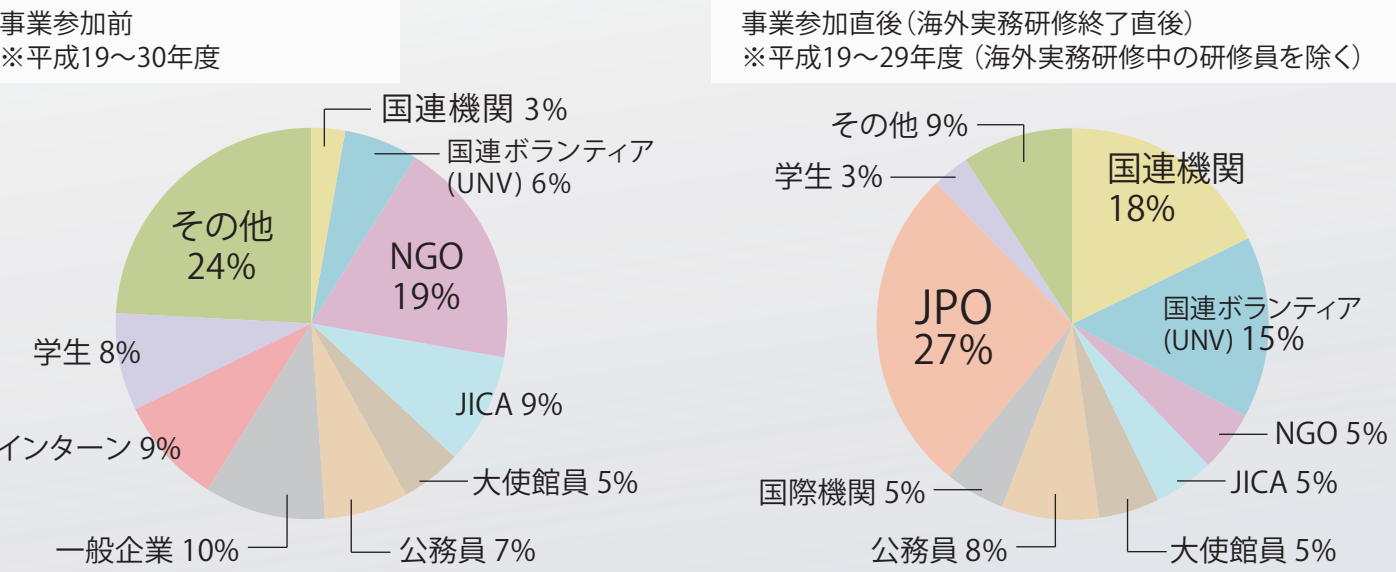


キャリア構築支援システム

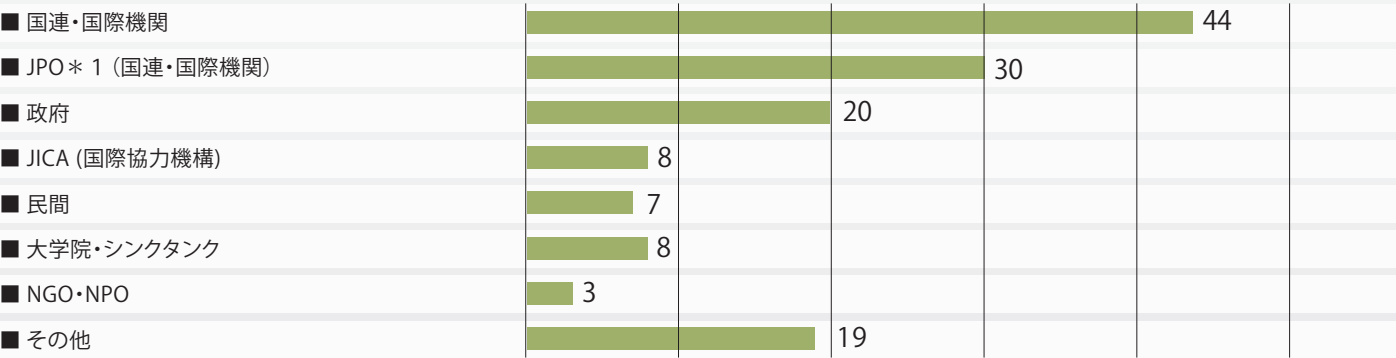
カウンセリングやセミナーに加え、すでに国連機関で活躍している修了生のキャリアマップやネットワーキングの場を提供し、キャリア構築のさまざまな面から支援を行いました。

データでみるキャリア構築

プライマリー・コース研修員・修了生の事業参加前後の職業



プライマリー・コース修了生の現在のフィールド



*1：JPO（ジュニア・プロフェッショナル・オフィサー）とは、日本政府が派遣にかかる経費を負担することにより、将来的に国際機関で正規職員として勤務することを志望する若手日本人が、一定期間（原則2年間）各国国際機関で職員として勤務し、正規職員となるために必要な知識・経験を積む機会を得る制度です。

※平成19～28年度までの、修了生149名のデータ（うち、過去1年以上確認がとれていない10名を除く）
※平成31年3月時点

海外実務研修後の主な活躍の場

国連機関 ▶ UNDP（国連開発計画）▶ UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）▶ UNICEF（国連児童基金）▶ UNESCO（国連教育科学文化機関）▶ WFP（国連世界食糧計画）
▶ FAO（国連食糧農業機関）▶ UN Women（ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関）▶ UNCRD（国連地域開発センター）
▶ UNRWA（国連/パレスチナ難民救済事業機関）▶ OUNF&P（国連基金・計画事務所）▶ DPKO（国連平和維持活動局）▶ WHO（世界保健機関）
▶ UNMAS（国連地雷対策サービス部）▶ UNV（国連ボランティア計画）▶ UNRCPD（国連アジア太平洋平和軍縮センター）
▶ UNOPS（国連プロジェクト・サービス機関）▶ UNFPA（国連人口基金）▶ UN Secretariat（国連事務局）▶ UNU（国連大学）▶ UN-Habitat（国連人間居住計画）
▶ OCHA（国連人道問題調整事務所）▶ UNODC（国連薬物犯罪事務所）▶ IOM（国際移住機関）▶ MONUSCO（国連コンゴ民主共和国安定化ミッション）
▶ UNAMA（国連アフガニスタン支援ミッション）▶ UNAMID（ダルフール国連AU合同ミッション）▶ UNAMI（国連イラク支援ミッション）
▶ UNIOGBIS（国連ギニアビサウ統合平和構築支援事務所）▶ UNMIS（国連スーダンミッション）▶ UNMISS（国連南スーダン共和国ミッション）
▶ UNSOM（国連ソマリア支援ミッション）▶ UNMC（コロンビア特別政治ミッション）
PKO訓練センター ▶ KAIPTC（コフィ・アナン国際平和維持訓練センター）
国際機関 ▶ INTERPOL（国際刑事警察機構）▶ ICRC（赤十字国際委員会）▶ World Bank（世界銀行）▶ OSCE（欧州安全保障協力機構）
NGO ▶ Medecins du Monde Japon（世界の医療団）▶ JCCP（日本紛争予防センター）▶ International Lifeline Fund ▶ World Vision Japan ▶ INTERSOS
▶ ADRA Japan ▶ NICCO（日本国民民間協力会）▶ Action contre la Faim ▶ CCP Japan（パレスチナ子供のカンパーン）▶ ケア・インターナショナル
政府関係機関 ▶ 外務省（本省・在外公館）▶ 内閣府 ▶ JICA（国際協力機構）▶ JICE（日本国際協力センター）▶ 広島県 ▶ 鈴鹿市 ▶ 入国管理局
その他の公的機関等 ▶ IGES（地球環境戦略研究機構）▶ 結核予防会結核研究所 ▶ 笹川平和財団 ▶ 教育機関、医療機関、法務・政務事務所 等



ピースビルダーズ特集

HPC「平和構築人材育成事業」の講師・修了生等、

世界各地にある平和構築及び開発の現場から、自らの経験を踏まえた生の声をお届けします。



大庭 真理枝
平成19年度プライマリー・コース修了生

国連コンゴ民主共和国安定化ミッション
(MONUSCO) 選挙局 シニア・アドバイザー

私は現在、国連平和維持活動の一つである国連コンゴ民主共和国安定化ミッション (MONUSCO) で、赴任当初は紛争下での性的虐待をはじめとしたジェンダー被害の予防及び対応に関する任務に、その後最近ではジェンダー・アドバイザーとして、性的暴力を予防し女性の側に立ったあらゆるコミュニケーション及び調停を進めることを通じて女性の選挙そして意思決定プロセスへの参加を促進する任務に、いずれもシニアアドバイザーとして従事しています。任務を遂行するに当たっては、コンゴ民主共和国 (DRC) 政府やステークホルダー関係者といった多様な役割で尽力する人たちに対し戦略的助言を与えるなどの支援を行い、ジェンダー被害の低減を図っています。

任国の大臣など政府関係者が主体性やリーダーシップを持って前向きな努力ができるように後方より支援し、彼らが強化されるのを実際に見ることができ、更に、コンゴ人や女性市民団体と共にAdvocacyを進めてきた2011年のカンパラ大統領宣言や、DRCの産婦人科医・人権活動家のムクウェゲ氏がノーベル平和賞を受賞するなど、世界的に性的虐待を抑止するためのジェンダー促進の努力が進展してきて、自らの任務に大きなやりがいを感じます。

私はこれまで国連機関で仕事に就く前に、米国大使館防衛協力室などドナーや国連の外で仕事をしていた経験を元に、多様な視野からのアプローチを、国連の

私はHPCのプライマリー・コースに、1期生 (平成19年度) として参加しました。その後もシンボリックな「広島」という土地に講師として戻る機会を頂き、平和を考える環境でのユニークかつ貴重な研修に関われることは非常に有り難く、多様な背景を持つ講師・研修員との交流は新鮮で、私は広島に戻る度にリフレッシュして、研修後もまた平和に関する仕事を頑張ろうと決意を新たにします。

国連機関で働くにあたってプロフェッショナリズムを尊重し、又、Humanity, Neutrality, Impartialityの価値を忘れず、軍や警察、文民関係者など多様な職種及び国籍の人から成るチームの中で相手を尊重しながら、他国の人を支援する任務を遂行するのは素晴らしいことです。私は、ずっと自分を磨きつつ、自らの任務につき質を高く保って、相手国を分析して知識を豊かにし、前向きな姿勢で相手国の大臣や平和にコミットした人権関係者等に寄り添い、グッドプラクティスを含む様々なアドバイスを求めに応じて与え、具体的な結果に導くよう尽力します。国連機関で働く夢を持つ皆さんも自分のビジョンと夢を持ち続け、UNVなど自分に与えられた機会や経験を将来に生かすべく、ポジティブに誇りを持って、自分らしく臨んでください。



石原 朋子
平成24年度プライマリー・コース修了生

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
シリア・カミシリ事務所 アソシエイト・
プロテクション・オフィサー

現在、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) シリア北東部のカミシリ事務所で、デリゾールやラッカからの国内避難民とイラク難民の方々に援助を行っています。2018年末からはデリゾールで対過激派組織の戦闘が激化し、北東部の避難民キャンプに12月上旬から現在に至るまで2万5千人以上の避難民が辿りついています。過激派組織の占領下における暴力と戦闘の影響で、深刻なトラウマを抱える人に対する心のケアや離れ離れになった家族との再会が必要です。また過激派組織に長い間支配されたため、これらの地域では多くの地雷が埋められており、故郷に安全に戻るには、地雷の危険を無くすとともに、生活するためのインフラ機能・行政サービスを整えることも将来重要です。

UNHCRシリアの保護政策の柱は、コミュニティセンターを通じた地域に根ざした保護の取り組みです。UNHCRのコミュニティセンターは、自己効力感や回復力を強化し、脆弱性を減らすことを目的に創立され、これらのセンターは①子供たちを学校に入れ、教育を続けさせる②心理社会的サポート③出生登録および文書化を含む法的援助④収入を生み出すための職業訓練⑤その他、様々なサービスを提供しています。北東部には避難民キャンプ内を含めコミュニティセンターが6つありますが、2019年はそのネットワークの拡張をめざしており、私はこのプログラムを統括しています。

過酷な状況のなかでも、この仕事をしてよかったと思う瞬間もありました。昨年、ある避難民キャンプで、ある少年と出会いました。その少年の一家はデリゾールで戦闘に巻き込まれ、少年は家族と離れ離れになってしまいました。僅かな望みを胸に少年はたった一人でハサケ県までたどり着き、アリーシャ避難民キャンプで暮らしていました。私たちチームは少年の家族を必死で探しました。2、3ヵ月後、少年の父親とようやく連絡がつき、親子は無事再会を果たし抱き合って涙にくれました。父親がその時「私の息子を安全な場所で守ってくださり、ありがとうございます。このことは一生忘れません」と言われ、幸せそうに帰っていく親子の姿を見たときの嬉しさを今でも覚えています。



舩岡 真理
平成25年度プライマリー・コース修了生
平成30年度ミッドキャリア・コース参加者

国連世界食糧計画 (WFP) ナイジェリア
サブオフィス所長/ ロジスティクス・オフィサー

国連世界食糧計画 (WFP) ナイジェリア・ラゴス支部におけるサプライチェーン責任者として業務を行っています。WFPが主導する取り組みとしてナイジェリア北部へ食糧を円滑かつ安全に届けること、また混雑を極めるラゴス港において、現地政府や関連機関との折衝により、人道支援物資の流れの構築を進めスムーズかつ確実な支援に貢献することが主な仕事です。独自の文化や商慣習を持つ現地関係者との

関係を構築しながら緊急支援物資への理解を深めてもらうことや、サプライチェーンに大きな課題を抱えるラゴスでの解決策を模索するのは大変ですが、同時にそれを乗り越えたとき大きなやりがいも感じます。

ナイジェリア以前は本部及びWFPミャンマー国事務所に勤務しており、多様な国、立場、視点からの経験ができたことは非常に幸運だったと考えています。また若いころからWFPの活動に携わりたいと願っていたので、点と点がつながっている喜びもあります。今後もWFPに貢献できるようなスキルを構築しながら、情熱と愛情を持って業務に取り組みでいきたいと考えています。



デズモンド・モロイ

HPCコース・メンター/ 日本財団ミャンマー
リエゾンオフィス プログラム・ディレクター

祖国アイルランドに奉仕する20年間の軍隊勤務で国内治安に従事した後、砲兵の専門家として、またレバノンでは平和維持担当官として、そしてカンボジアでは国連と共に軍事監視官として、私は国際人道支援の分野で働くために大尉として早期引退しました。1995年から、私はコンゴ、ボスニア、ルワンダ、エチオピア、コンボで国際NGOと赤十字 (IFRC及びICRC) で、そして東ティモールでは国連のボランティアとして働きました。2001年に世界保健機関 (WHO) コンボ事務所で財務部長および人事部長を務めている期間、私は国連ミッションの平和維持活動局 (DPKO) と共にシエラレオネでのDDR (武装解除・動員解除・社会復帰) プロセスに参加するよう招かれました。このDDRの導入に続いて、私は国連シエラレオネ事務所、そして国連ハイチ事務所でDDR課長になりました。2007年にハイチで疲弊してしまい、東京外国語大学で修士号、続いて博士号を取得しました。2007年から2013年の間、勉強をしながら、HPCでの活動に加えて、私は中央アフリカ共和国とネパールにおいて国連開発計画 (UNDP) のシニアDDRアドバイザーとして、また、ナイジェリア、スリランカ、ソマリアでの短期契約に加えて、DDRの実践コミュニティと共に本格的な取り組みに携わりました。

私が平和構築者として、何十年もの国連と市民社会の両組織で経験を積み重ねてきた中から、あらゆる平和構築者にとって最も重要な個人的な資質は、生来の尊敬の感覚を育む能力でなければならないと信じるに至りました。尊敬は人間が享受すべき基本的な権利であり、権利でも義務でもあります。その尊敬は、同僚との間やあなたのプログラムのすべての利害関係者の間で育まなければならない。そのような尊敬は、健全な関係、そして最終的には信頼の醸成につながります。信頼はすべての平和構築の基盤です。信頼はしばしばリスクを伴います。関係が健全であれば、リスクは軽減されます。信頼があるところでは、関係は健全です。信頼は尊敬があるところに存在します。HPCは、そのさまざまなコースを通じて、その生来の尊敬の感覚を育むことを試みています。



忍足 謙朗

HPC評議委員/国連世界食糧計画 (WFP)
元アジア地域局長

自分の場合、国連に入ったのは偶然だったと思います。アメリカにいる時に国連開発計画 (UNDP) のインタビューを勧められて、リビアへのJPOとしての赴任がわりと簡単に決まりました。その後、国連人間居住計画 (UN-HABITAT) のケニア本部勤務を経て、国連世界食糧計画 (WFP) で25年勤めました。WFPに落ち着いたのは、長期的な開発支援より、スピード感のある、紛争地や自然災害の緊急人道支援が自分に向いていたからだと思います。キャリアのハイライトとしては、2006から2009年までスーダンで77カ国のスタッフからなる、3000人規模のWFPのオフィスを任された時です。そのような多国籍チームをまとめるのは難しいのでは、とよく聞かれますが、それが国連の仕事の醍醐味であり、むしろ楽しさであると感じてきました。

リーダーシップやチームワークについて心がけてきたことはわりとシンプルです。誰に対しても公平であること、思いやりを持ってスタッフに接すること、勇気のある決断と行動が取れることぐらいです。